



キャッシュフロー表をつくりましょう

1.キャッシュフロー表でお金のこれからを可視化する

2.定期的な見直しが大切

1.キャッシュフロー表でお金のこれからを可視化する

長期にわたる経済計画を立てるとき、キャッシュフロー表を作ることをお勧めします。キャッシュフロー表は将来にわたる収入と支出・貯蓄残高の予想額を表にして一覧できるようにしたものです。給与や年金がいつ・いくらもらえるのか、この先、生活費や様々なライフイベント費用としてどれくらいを見込んでおかななくてはいけないのか、こうしたことを一つひとつ明らかにしながら作成していく過程で、ぼんやりとしていた将来の自分と家族の姿、その時々々の経済状況が可視化されていきます。それが経済面での課題の早期発見と修正プランの作成につながるのです。

初めてキャッシュフロー表を作成したときは、自分のイメージとかけ離れた結果が出ることも珍しくありません。えっ、何これ？どうしよう？と思ったとしたら、そこからが本当のライフプランニングのスタートです。

● キャッシュフロー表の作り方

キャッシュフロー表は次の4つの要素で構成されます。

1. 経過年数と各年の家族の年齢

子どもの就職や自身の定年退職など、ライフイベントの記入欄も設けておくといいでしょう。

2. 収入 **ポイント** 収入は少なめに見積もります。

給与や年金、臨時収入(退職金や保険の満期金など)の見込み額です。夫婦両方について記入します。収入ごとに欄を設け、資料を見ながら機械的に記入していきます。

3. 支出 **ポイント** 支出は多めに見積もります。

経常的な支出のうち、教育費などがたてなくなるものや、住宅ローン・生命保険料など金額が決まっているものは、その欄を設けておくで見直しがしやすくなります。

4. 年間収支と貯蓄額

年間収支は、1年間の貯蓄額または赤字額です。現在の貯蓄額に毎年の年間収支の金額を加算して貯蓄額を計算します。

● キャッシュフロー表の見方

キャッシュフロー表から定年後の働き方や給与、リタイア時期は適当か、支出＝お金の使い方に問題はないか、リタイア時点の貯蓄の見込み額がどれくらいで、その後に希望している生活を送りライフイベントを達成することができそうか、といったことを読み取ることができます。

年齢的に早い時期から、特別な支出がないにもかかわらず年間収支の赤字が続くといった場合は、リタイア時期の再検討や生活の見直しが必要です。貯蓄残高が赤字になるというのは、経済的な破綻を意味します。あくまでもシミュレーションですから、冷静に受け止め、どうすればそうした事態を回避できるのかを考えましょう。

2. 定期的な見直しが大切

一度作っておしまいではなく、立てたプラン通りに順調に進んでいるか、修正の必要がないかなど、できれば年末や誕生日など期日を決めて定点観測しましょう。表計算ソフトを使うと数字の更新や、何かを見直した場合のシミュレーションに便利です。

キャッシュフロー表の例

前提

誕生日 (夫) 9月20日 (妻) 11月10日
その歳を迎えた月日の属する年度の収支を記載

経過年数	現在	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2029	2030	2031	2032	2033	
年齢	太郎(夫)	55	56	57	58	59	60	61	65	66	67	68	69
	花子(妻)	52	53	54	55	56	57	58	62	63	64	65	66
	一郎(長男)	20	21	22	23	24	25	26	30	31	32	33	34
	由美(長女)	18	19	20	21	22	23	24	28	29	30	31	32
予定・計画・夢		★由美 大学入学	★一郎 大学卒業	★結婚式 ★一郎就職	★由美 大学卒業	★太郎定年 ★由美就職	★太郎 継続雇用	★太郎継続 雇用終了 年金開始	★一郎一人 暮らし		★花子 年金開始 パート変更		
収入(万円)	給料(夫)	800	800	800	800	800	800	280	280				
	給料(妻)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	50	50
	年金(夫)								100	200	200	200	200
	年金(妻)											30	90
	A社個人年金 臨時収入						30	30	30	30	30	30	30
収入計	900	900	900	900	900	2,430	410	510	330	330	310	370	
支出(万円)	生活費	400	400	400	380	380	360	360	360	300	300	300	300
	住居費	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
	保険等	60	60	60	60	60	60	40	20	20	20	20	20
	教育費	250	400	400	200	200							
	臨時支出		150		50								
支出計	890	1,190	1,040	870	820	600	580	560	500	500	500	500	
年間収支	10	-290	-140	30	80	1,830	-170	-50	-170	-170	-190	-130	
貯蓄額	800	510	370	400	480	2,310	2,140	1,580	1,410	1,240	1,050	920	

問題発見！今のままでは定年後、赤字が続く